

ワークショップ

「カプセル内視鏡の教育」

司会 藤森 俊二（日本医科大学千葉北総病院消化器内科）

斎藤 豊（国立がん研究センター中央病院 内視鏡科）

カプセル内視鏡（CE）は広く普及し、小腸検査においては第一選択の検査となっている。検査法は簡便であり、検査の質を左右するのは読影である。また、カプセル大腸内視鏡（CCE）も適応の制限があるが、ニーズは年々増加してきている。CCEは前処置法だけではなく、読影法も小腸検査とは大きく異なる。

本ワークショップではCEの価値を決める読影法を中心に、その学び方・教育法について演題を応募する。AIが開発され読影の負担は減りつつあるが、最後の判断は医師の責任となる。多くの施設で様々な工夫について議論できることを期待する。